

進化経済学会・「制度と統治」部会

2017年度第一回研究会

「現代制度経済学における貨幣論・行為論・認識論 の到達点：J.R.コモンズ『制度経済学』からの省察」

日時：2017年4月4日（火曜日）13:00～17:00

場所：阪南大学あべのハルカスキャンパス

（あべのハルカス 23階）第1セミナー室

「フランス・レギュレーション学派の貨幣論の旗手、ブルーノ・テレ氏（CNRS）が阪南大学産業経済研究所の招聘により、来日されます。テレ氏の貨幣論研究は、最近日本でも翻訳が出版されたデイヴィッド・グレーバー『負債論』（2016年、以文社）のなかで負債論に基づく貨幣論の代表的研究として取り上げられており、各方面で注目を浴びています。また、テレ氏は、フランスにおけるコモンズ『制度経済学』研究の第一人者でもあります。

そこで、この機会を捉えて、コモンズ研究を踏まえた上での、テレ氏のオリジナルな貨幣論を報告いただくと共に、コモンズの制度経済学理論の現代的意義を、レギュレーション理論とコンヴェンション理論の側面から若手研究者の方々に議論していただきます。前者（北川報告）では、従来レギュレーション理論に欠けていた行為論が、コモンズ理論の再構築から論じられると同時に、後者（黒澤報告）では、コンヴェンションの認識論がコモンズのそれと結びつけられて論じられる予定です。

学期はじめのお忙しいときとは存じますが、ふるってご参加ください。

13:00～14:00 北川亘太（関西大学経済学部）

“The Driving Forces of Diffusion in John R. Commons’ Institutional Economics”

14:00～15:00 黒澤悠（大阪市立大学大学院経済学研究科・院）

“The Works of Alain Desrosières and French Convention Theory”

15:00～15:20 休憩

15:20～17:00 ブルーノ・テレ（フランス国立科学研究院）

“The multiple faces of the hegemony of (North American) Financial Economics”

* 終了後、懇親会を開催いたしますので、参加いただける方は3月20日まで事務局までご連絡ください。